

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3032704号

(45) 発行日 平成9年(1997)1月10日

(24) 登録日 平成8年(1996)10月9日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 3 C	9/04		A 6 3 C	9/04
	5/00			5/00
				B

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 10 頁)

(21) 出願番号 実願平8-7212

(22) 出願日 平成8年(1996)6月21日

(73) 実用新案権者 596108575

ジャック リン

アメリカ合衆国 ニューヨーク州 12428,

エレンビル, エドワーズ プレイス 3

(72) 考案者 ジャック リン

アメリカ合衆国 ニューヨーク州 12428,

エレンビル, エドワーズ プレイス 3

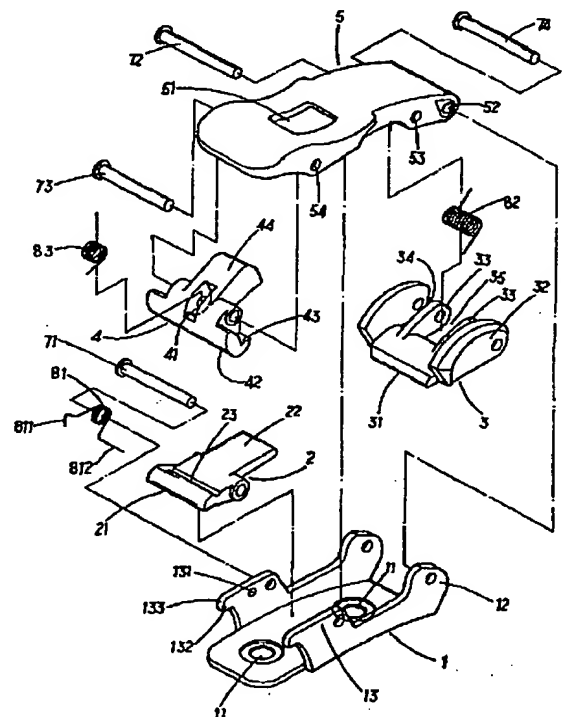
(74) 代理人 弁理士 竹本 松司 (外4名)

(54) 【考案の名称】 スキー板のスキー靴固定器の調整バンド

(57) 【要約】

【課題】 スキー板のスキー靴固定器の調整バンド。

【解決手段】 スイングハンドル5を下圧して係止部材4のフック爪43と底座1の係止ブロック132を係止させることで、スキー板上のスキー靴固定器上のスキー靴の安定した位置決め状態を達成でき、歯条帯6を引き抜く場合には、係止部材4の押し部44を押し下げてスイングハンドル5を上に戻した後さらに後止片2の上板22を押せば歯条帯6を引き抜ける。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 受止面62と斜滑面63からなる歯61を等距離に複数配置してありスキー板上に固定されたスキー靴固定器100上に固定された歯条帯6と、該スキー靴固定器100上に固定された帯101と、該歯条帯6と帯101とを固定するバックルとを備えてなるスキー板のスキー靴固定器の調整バンドであって、

該バックルは、底座1、後止片2、前推片3、係止部材4、スイングハンドル5を備え、

上記底座1は、上記帯101上に固定され、該底座1の前端に一对の前立板12が、後端に一对の後立板13がそれぞれ設けられ、各後立板13の尾端に後向きに、上端面を円滑面133とした係止ブロック132が凸設され、その中、一つの後立板13上にフック孔131が設けられたもので、

上記後止片2は、その一端が押圧面21とされ、もう一端が上板22とされ、上面に一つの凹所23が設けられ、第1枢接部材71が後立板13と第1弾性部材81及び後止片2を穿過し、該第1弾性部材81の一端のフック811が、該フック孔131に掛けられ、該第1弾性部材81の別端の弾性押さえ部812が該後止片2の上面の凹所23に嵌め置かれるもので、

上記スイングハンドル5は、上面に一つの孔51を有し、該スイングハンドル5の両側に、第1貫通孔52、第2貫通孔53、及び第3貫通孔54が後から前に順に設けられ、第4枢接部材74が該第1貫通孔52を貫通して底座1の上記前立板12と回転自在に接続するもので、

上記前推片3は、その一端が押止面31とされ、該前推片3の両側にそれぞれ上向きに延伸された側壁32と一对の止め片33が設けられ、側壁32と止め片33の間にスイングハンドル5の両側が収容される間隙34が形成され、二つの止め片33の間に切欠き部35が形成され、該切欠き部35に第2弾性部材82が置かれ、第2弾性部材82の両側がそれぞれスイングハンドル5の底面と前推片3の上面に接触するものとされ、第2枢接部材72がスイングハンドル5の第2貫通孔53、前推片3及び第2弾性部材82を穿過することを以てスイングハンドル5に枢接されるもので、

上記係止部材4は、上面に凹所41が設けられ、該係止部材4の一端が円弧面42とされ、両側に、それぞれフック爪43が設けられ、該係止部材4の別の一端は押し部44とされ、該押し部44が上向きにスイングハンドル5の孔51を穿過させられ、さらに第3弾性部材83が該係止部材4の凹所41に置き入れられ、第3弾性部材83の両端が、それぞれスイングハンドル5の底面と係止部材4の上面に接触させられ、第3枢接部材73が第3貫通孔54、係止部材4及び第3弾性部材83を穿

過して枢接されるものとされ、

上述の構成部材を組合せてバックルが形成され、歯条帯6が底座1の前端に穿入させられ、スイングハンドル5、前推片3及び後止片2の動作が反復進行させられることで、歯条帯6の締めつけ具合が適当に調整可能とされ、スイングハンドル5の下圧により上記フック爪43と係止ブロック132に係合することで、スキー板上のスキー靴固定器上のスキー靴の安定した位置決め状態が達成され、歯条帯6を引き抜く場合には、係止部材4の押し部44の押し下げてスイングハンドル5を上に戻した後さらに後止片2の上板22を押すことで、歯条帯6が引き抜き可能とされることを特徴とする、スキー板のスキー靴固定器の調整バンド。

【図面の簡単な説明】

【図1】本考案の分解斜視図である。

【図2】本考案の組合せ斜視図である。

【図3】本考案と歯条帯の結合を示す斜視図である。

【図4】本考案の実施例斜視図である。

【図5】本考案の部分組合せ斜視図である。

【図6】本考案の組合せ断面図である。

【図7】本考案の微調整実施断面図である。

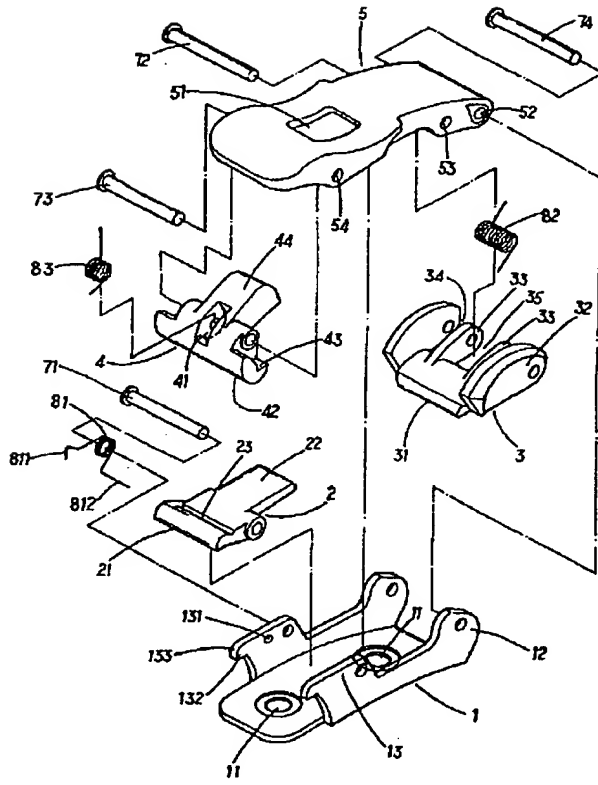
【図8】本考案のもう一つの微調整実施断面図である。

【図9】本考案の突起動作表示図である。

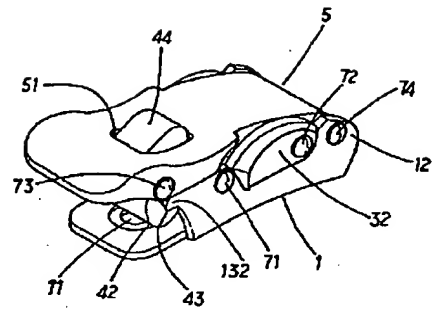
【符号の説明】

1・・・底座 2・・・後止片 3・・・前推片 4・・・係止部材
5・・・スイングハンドル 11・・・円孔 12・・・前立板
13・・・後立板 132・・・係止ブロック 131・・・フック孔
133・・・円滑面 21・・・押止面 22・・・上板 23・・・凹所
81・・・第1弾性部材 812・・・弾性押さえ部 811・・・フック
31・・・押止面 32・・・側壁 33・・・止め片 34・・・間隙
35・・・切欠き部 82・・・第2弾性部材 41・・・凹所
83・・・第3弾性部材 42・・・円弧面 43・・・フック爪
44・・・押し部 51・・・孔 52・・・第1貫通孔
53・・・第2貫通孔 54・・・第3貫通孔 100・・・スキー靴固定器
6・・・歯条帯 61・・・歯 62・・・受止面 63・・・斜滑面
101・・・帯 71・・・第1枢接部材

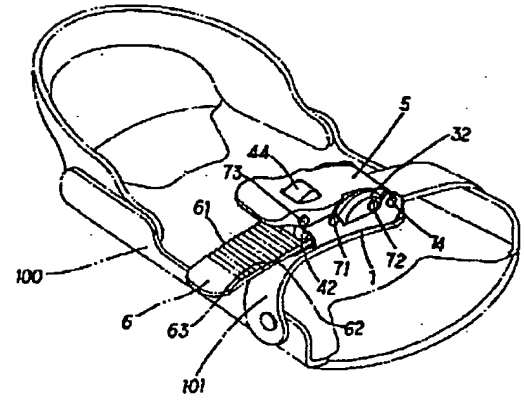
【図1】



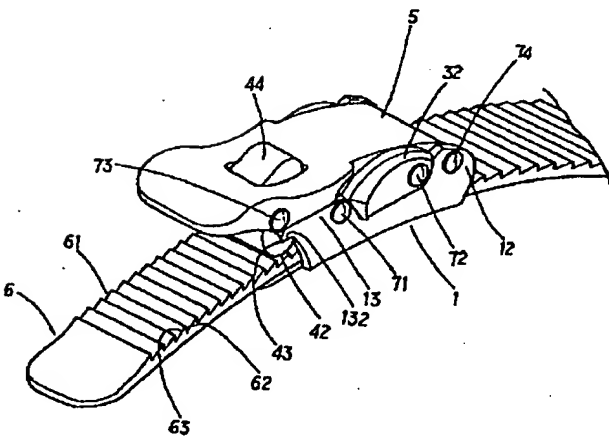
【図2】



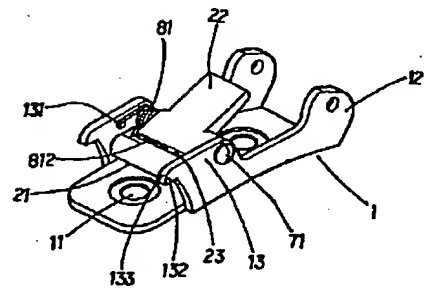
【図4】



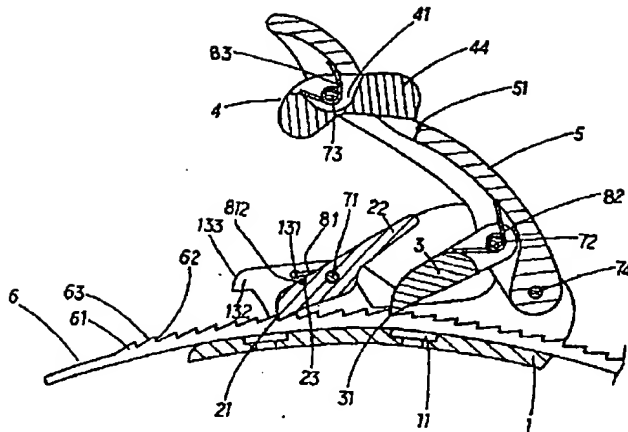
【図3】



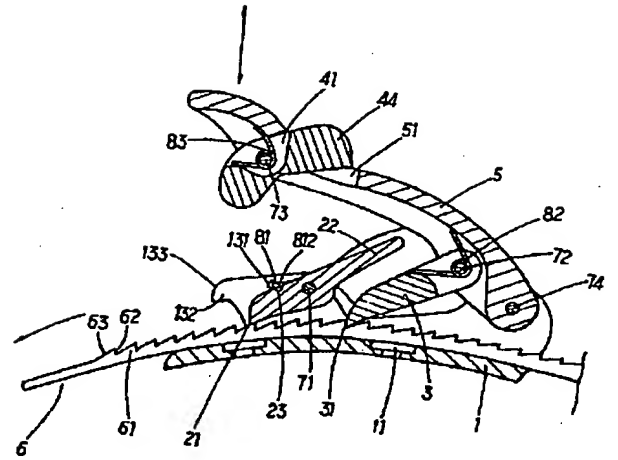
【図5】



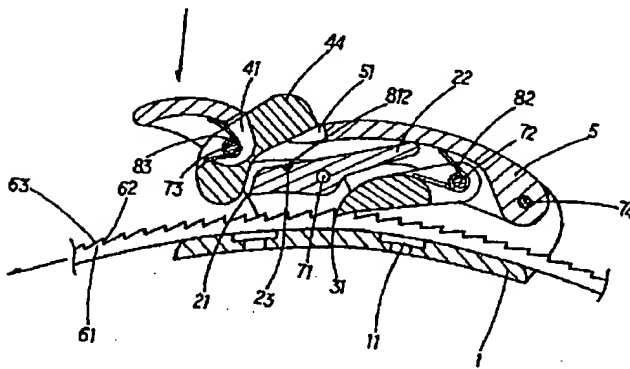
【図6】



【図7】



【図8】



【図9】

